

主日礼拝

2025 年 12 月 07 日
午前 10 時 30 分

前奏 「高く戸を上げよ」 (M. レーガー)

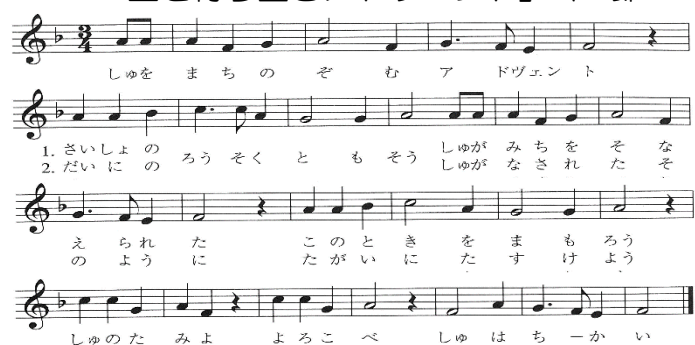
参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「主の律法は完全で、魂を生き返らせ
主の定めは真実で、無知な人に知恵を与える。
主の命令はまっすぐで、心に喜びを与え
主の戒めは清らかで、目に光を与える。
主への畏れは清く、いつまでも続き
主の裁きはまことで、ことごとく正しい。
金にまさり、多くの純金にまさって望ましく
蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い。」
(詩編 19:8～11)

点火 242-1,2

「主を待ち望むアドヴェント」1,2 節



- 1 主を待ちのぞむアドヴェント、 2 主を待ちのぞむアドヴェント、
さいしょのろうそく と もそう。 第二のろうそく と もそう。
主が道をそなえられた 主がなされたそのように、
この時をまもう。 たがいに助けよう。
主の民よ、よろこべ。主は近い。 主の民よ、よろこべ。主は近い。

信仰告白 使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我は
その独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生れ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架に
つけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に
死人のうちよりよみがへり、天に昇り、全能の父なる
神の右に坐したまへり、かしこより来りて、生ける
者と死ねる者とを審きたまはん。我は聖霊を信
ず、聖なる公同の教会、聖徒の交はり、罪の赦し、
身体^{からだ}のよみがへり、永遠^{とこしえ}の生命^{いのち}を信ず。アーメン。

賛美 233-1,2 「高く戸を上げよ」

Macht hoch die Tür
詞: Georg Weissel, 1590-1635MACHT HOCH DIE TÜR
曲: Geistreiches Gesangbuch, 1704

- 1 高く戸を上げよ、いざ、門を開け。 2 救いと正義に あふれたもう主は、
救いといのちを この世にもたらす、 柔和を身に帯び、憐れみをみ手に、
栄えの君なる 主イエス来たりたもう。 われらの嘆きに 終わりをもたす。
ほめたたえよ、造り主を。 ほめたたえよ、救い主を。

祈禱

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

賛美 39-5 (2 回) 「ハレルヤ」



聖書 エレミヤ書 36:1～10 旧約(新共同訳)p1245

1 ユダの王、ヨシヤの子ヨヤキムの第四年に、次の言葉が主からエレミヤに臨んだ。2「巻物を取り、わたしがヨシヤの時代から今日に至るまで、イスラエルとユダ、および諸国について、あなたに語ってきた言葉を残らず書き記しなさい。3 ユダの家は、わたしがくだそうと考えているすべての災いを聞いて、それぞれ悪の道から立ち帰るかもしれない。そうすれば、わたしは彼らの罪と咎を赦す。」

4 エレミヤはネリヤの子バルクを呼び寄せた。バルクはエレミヤの口述に従って、主が語られた言葉をすべて巻物に書き記した。5 エレミヤはバルクに命じた。「わたしは主の神殿に入ることを禁じられている。6 お前は断食の日に行って、わたしが口述したとおりに書き記したこの巻物から主の言葉を読み、神殿に集まった人々に聞かせなさい。また、ユダの町々から上って来るすべての人々にも読み聞かせなさい。7 この民に向かって告げられた主の怒りと憤りが大きいことを知って、人々が主に憐れみを乞い、それぞれ悪の道から立ち帰るかもしれない。」8 そこで、ネリヤの子バルクは、預言者エレミヤが命じたとおり、巻物に記された主の言葉を主の神殿で読んだ。

9 ユダの王、ヨシヤの子ヨヤキムの治世の第五年九月に、エルサレムの全市民およびユダの町々からエルサレムに上って来るすべての人々に、主の前で断食をする布告が出された。10 そのとき、バルクは主の神殿で巻物に記されたエレミヤの言葉を読んだ。彼は書記官、シャファンの子ゲマルヤの部屋からすべての人々に読み聞かせたのであるが、それは主の神殿の上の前庭にあり、新しい門の入り口の傍らにあった。

賛美 243 「闇は深まり」

Die Nacht ist vorgedrungen
詞：Jochen Klepper, 1903 - 1942



- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1 | やみは深まり、夜明けは近し。
あけの明星 輝くを見よ。
夜ごとに嘆き、悲しむ者に、
よろこびを告ぐる 朝は近し。 | 3 | 闇は去りゆく。目さめて走れ、
救い秘めたる ああ馬小屋へ。
恵みの光 照り輝きて
悩み悲しみは もはやあらず。 |
| 2 | おきな子となり 僕となりて
み神みずから この世にくだる。
重荷負うもの かしらを上げよ、
信ずるものはみな 救いを受けん。 | 4 | 闇の中にも 主は歩み入り、
かけがえない われらの世界
死の支配より 解放したもう。
来たらしめたまえ 主よ、み国を。 |

説教 「消えることのない言葉」

賛美 241 「来たりたまえわれらの主よ」

O Dieu du clemens
詞：Jacques Candéau, 20世紀

SWISS NOEL
曲：スイス民謡



- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1 | 来たりたまえ われらの主よ、
主を待ち続ける民に。
恵みの主よ、今降り
この世の暗きをやぶり、
永遠の光 与えたまえ。
来たりたまえ われらの主よ、
主を待ち続ける民に。 | 2 | 嘆きの地は 主の愛を受け
希望の光はのぼる。
われらの救いのために
しもべの姿をとりて、
まぶねの中 眠るみ子よ。
嘆きの地は 主の愛を受け
希望の光はのぼる。 |
| 3 | 響けよ、天に、あまねく地に、
喜びあふれる知らせ。
天使の賛美にこたえ
うたえ、つくられし者は、
主をたたえる祝いの歌。
響けよ、天に、あまねく地に、
喜びあふれる知らせ。 | | |

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン



後奏 「来たりたまえわれらの主よ」 (C. フランク)

司式 要田 悟史
説教 向井 希夫牧師
奏楽 大代 恵

※お立ちになるのが困難な方は、
座ったままで礼拝をお守り下さい。